



# みどり園まつり

## それぞれの楽しみ方で

第4回のみどり園まつりは、平成23年10月22日(土)に、体育館を中心に開催しました。当日の雨が心配された結果の選択でしたが、「こんなのも有りかなー」と、新鮮な感じもしました。ふと、体育館の2階に上がり、全体を観察すると、家族とべったりで、食べ物コーナーを渡り歩いている人、お手伝いに励んでいる人、客席でリズムをとりながら舞台を楽しんでいる人の動きが、それぞれに楽しそうでした。また、なつかしい人達がたくさん訪れ、あちこちでミニ同窓会の花が咲いていました。今年も、29名のボランティアさん達が、職員や父兄に交じってできばきと楽しそうに働いてくれました。ほんとうに感謝しています。

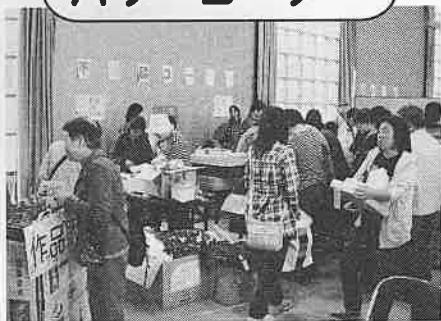


## 催し物コーナー

イベントステージでは児童課の踊りの他、外部からの出演者のステージもみどり園まつりの魅力のひとつです。毎年出演していただいている地元のさぬき民俗芸能保存会の方々や斯道学園の踊り、ボラえもんさんの手品、楽器演奏のほか、今年は輝連舞夢と丸亀城パサラ京極隊による、きれいと迫力のある踊りが加わり、イベントは盛況のうちに終わりました。今年初めて出演して頂いた出演者の方から、みどり園のことを初めて知り、よかったと言って頂きました。このようなきっかけを大切に、今後もみどり園を多くの方に知っていただき、交流を深めていけたらと思っています。



## バザーコーナー



お天気がすっきりしない中でしたが、うどん、おでん、フランクフルト、飲み物、遊び広場、ポン菓子、それから今年初めてさぬき三畜の焼き肉セット、かしわ飯、の販売がありました。

なんと、ポン菓子は完売状態。販売係も完売すると達成感があって、なんともうれしいものです。

たくさんあって、何を食べようか迷った方もおられたのではないのでしょうか。あれこれ選ぶのが楽しいうえに、おなかいっぱいになって利用者さんたちも大満足でした。

不用品バザー・作品即売コーナーも好評でたくさんお買い上げいただきました。

利用者さん、保護者の方、退園生、そしてボランティアさんの力がなければ、きっと成功することはなかったでしょう。

皆様の御協力、本当に感謝しています。ありがとうございました。

.....  
おでん、うどんコーナーを担当しました。『食べることは、生きること。』をモットーに、日々食事提供をさせていただきます。

みどり園まつりのような非日常での食事サービスは、普段の仕事では味わえないような楽しみを、利用者さんが与えてくれます。いつもと違う浮き浮きした表情や動きの利用者さんを見ていると、私たちスタッフもついつい頬が緩んできます。あの笑顔がまた見たいと思い、次の企画(行事食や調理実習)を練っているところです。(栄養士)

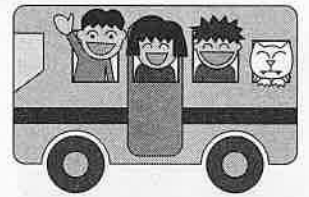
## 作品展示コーナー



作品展示コーナーでは、生活介護A・B・C班、生活訓練班、就労移行支援班、西棟、北棟による作品、利用者の保護者を代表して佐々木巖さん、高橋秀毅さんによる絵画、川岡陶芸クラブによる陶芸、また今年は、新たにみどり園華道部の生け花を展示しました。皆さんの日頃の活動の成果や、余暇を利用して製作されたもので、いずれも力作ぞろいでした。

展示コーナーは、メイン会場から少し離れていましたが、たくさんの方が観覧され、利用者の伸び伸びとした個性的な作品に、思わず足を止めて見入る姿も目にとまりました。

わかば児童課は入所支援事業（35名定員）と併せて、短期入所事業・日中一時支援事業を実施しています。在宅の障害児の方が保護者さんの都合で一時的に保護が必要となった時、みどり園に短期間入所できる事業です。宿泊を伴う場合が短期入所事業、日中預かりが日中一時事業となります。今夏は利用希望の多い短期入所の定員を拡げ、中部養護学校へのマイクロバスの送迎サービスも開始し、出来るだけ在宅の方のニーズに応えようとして取り組んでいるところです。（併設型4名と空床型の併用）



夏休みや冬休み、週末ともなると入所の子どもたちに加え、短期・日中一時利用の子どもたちで児童課は大変賑やかになります。子どもたち皆が、みどり園で過ごすことにより、少しでも成長につながったり楽しい時間を過ごせるように、また保護者の方には安心して預けていただけるように、今後も支援の充実に努めていきたいと思っています。

利用にあたっては、お住まいの市役所・町役場で「受給者証」を受け、当園との契約により利用することとなります。詳細は、市・町もしくはみどり園までお問い合わせください。

## 北棟・西棟の子どもたち

北棟には、ことばによるコミュニケーションが苦手な子どもがいます。しかし、ことばではなくても、身振り・手振りなどを駆使して、何とか私たち職員に自分の想いを伝えようとする姿をよく目にします。「わかってよ!」「なんでわからないの?」…そんなことばにならない「ことば」が聞こえてきます。こうした光景を地域の方々に見ていただく機会を、皆無と言っても過言ではありません。北棟での子どもたちの生活を地域の方々に発信していくことが、足りなかったように思います。どのようにお伝えしていくのか…私たちの課題です。子どもたちの歩みは僅かでも、その歩みは成長の証。その喜びを分かち合いたいと思います。



### 「西棟の子どもたちと地域とのつながり」

西棟には、地域の小学校に通っている子どもたちがいます。日頃はみどり園の子どもたちだけで登下校していますが、時々お友達が園に遊びに来られます。他児が居ますので、普通の家庭のように棟内に招き入れることは出来ませんが、園内の遊具などで一緒に遊びます。

また休みの日には西棟の目標である体力作りに、小田池や奈良須池方面、広旗神社方面等へ歩行したり、堂山登山をしたりしますが、その道々で出会う人たちと元気な声で挨拶を交わします。にこっと笑顔で答えてくれる地域の人々は、子どもたちにとって社会性を身につける上でとても良い手本になります。今後ともよろしくお願ひします。

## 岡本荘とのボランティア交流をとおして「いま 僕たち、私たちにできること」

これまで、同じ地域にありながら交流する機会のなかった岡本荘さんとの交流は、昨年5月に子どもたちに届いた「カップ座の人形劇」の招待に始まりました。

その日は西棟の子どもたち全員が始めて岡本荘へおじゃましたわけですが、人形劇もさることながら、こんな近くに自分達が生活しているところとはまた違った、車椅子に乗ったお年寄りの方たちがたくさんいる施設の存在に驚いた様でもありました。

その後、せっかくの出会いの機会をこれからも生かせる方法はないものかと、子どもたちと考える中で出てきたのが、「なにか、自分たちにできることはないかなあ?」という素直な思い付きでした。

日々、子どもたちと生活する中で感じていることは、施設の生活というものは、そのほとんどが準備されているものであって、常に受身の状態であることが多いということ。人間関係に限られていること。そのことが、知らず知らずのうちに子どもたちから「自分で考えて動く」また「だれかの役に立つことをする」という機会を奪ってしまっているということです。

その思いで、春・夏・冬休みを利用して、ちょっとしたお手伝いプラスお年寄りの方たちとのふれあいができたら・・・ということで始まりました。

西っ子児童会の、特に高校生を中心に、この夏休みで早6回を重ねました。最初はぎこちなかった挨拶や交流会も回を重ねる度に上手になり、またお掃除の方も十分ではありませんが、子どもたちなりに一生懸命取り組む様子が見られています。

今後もできるだけ続けていきたいと思っていますが、子どもたちを理解し、このような機会を提供していただいた岡本荘さんには、深く感謝している次第です。

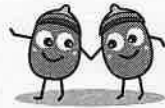


## 県障害者スポーツ大会

9月10日に県障害者スポーツ大会があり、児童課・成人課から22名参加しました。開会式では児童課の田辺裕次さんが全選手を代表して女性の方と二人で立派に選手宣誓をし、長野敬さんが旗手を務めました。前日までの涼しさと違い猛暑で、成績はもうひとつでしたが、皆最後まで力を尽くして頑張りました。本番に強いという言葉どおり、職員の心配を見事に裏切ってくれて練習なしで本番に参加することができた人もいました。競技以外にも、アトラクションの大学生のチアガールのお姉さんたちに夢中で最前列に陣取って黄色い声援を送る子どもたちの姿、東棟の3名の人たちが最後まで他の人たちと一緒に待つことができている姿や、毎年恒例行事で慣れた南棟の人たちの臨機応変な動きにも感動しました。

また、退園・地域移行したメンバーにも再会できて楽しい1日になりました。





# ボランティア特集



もう何年も前から児童課の子どもたちと関わって来たグループです。シャボン玉やビーズ遊び、サイクリングやバスハイク、園内の梅を取っての梅酒作りなど、毎月子どもたちが喜びそうな色々なメニューを計画してくれています。

## 農芸ボランティア

昨年の12月から米田さんの申し出で活動を開始しました。現在の会員は5名。毎週木曜日の午後に活動してくれています。今回は米田さんに感想をお聞きしました。

「今年は、農園ボランティアにとって初めての夏でした。アイスプラントから始まった農園ボランティアは、何事も初づくしでした。サニーレタス、ジャガイモ、トマト、ミニトマト（赤、黄）、ピーマン、オクラ、シシトウ、トウモロコシ、かぼちゃ、サツマイモ…に挑戦できました。種まき、植え付け、収穫と多忙でしたし、水やり、草抜き、支柱づくりの作業もありました。

みんなで農作業をして汗をかきました。氷がひとつ入った冷たいお茶のおいしかったこと、収穫ができてうれしかったこと、ワイワイガヤガヤとにぎやかに面白くおしゃべりしたことなど。楽しいことばかりです。みんなと一緒に、ちょびっと無理してがんばった木曜日（農園ボランティア）でした。（米田茂記）

太陽の下で活動する農園ボランティアの皆さんと利用者さんたちはニコニコ、キラキラ。一人ひとりが、育てたアイスプラントのように光り輝いています。



## メイクボランティア

毎月、女性利用者にメイクをしてあげているのは、今年で4年目になる西田さんです。きれいにお化粧してもらおうということは、女性にとって、とても幸せなひと時…。自信にも繋がります。西田さんの魔法でより一層きれいになった自分を見て、思わずにっこり。



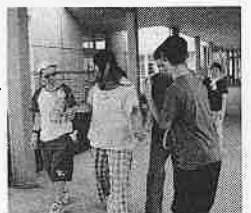
## カットボランティア

今西さんたちは2ヶ月に1度、園内でカットをしています。今西さんたちは専用室でカットしてくれます。いつもはそわそわしている利用者さんもジーンとして、カットしてもらうのを楽しんでいるようです。



## ウォーキングボランティア

今年4月から毎週、月・水・金曜日の午前中、藤本さんがウォーキングにボランティアとして参加してくれています。ウォーキング中の藤本さんはニコニコ笑顔いっぱい。また、よく話を聞いてくれるとあって利用者さんが集まっています。



## 地域移行ニュース

この夏、みどり成人課南棟に三人の来園者がありました。

一人は21年度にケアホームに移行した滝口さんです。

滝口さんは毎年お盆とお正月に1泊2日のみどり園に里帰りをしています。長年住み慣れた南棟での生活は滝口さんにとっては何の不自由もなく、お手伝いをしてくれたり他の利用者さんのお世話をかって出してくれたり…。利用者さんたちは今年も滝口さんが来るのをとても楽しみに待っていました。

あとの二人は、同じく21年度にグループホームに移行した黒瀬さんと橋本さんです。お盆で仕事が休みになり、二人揃ってかつての仲間たちに会いに来てくれました。今いる利用者さんのために、二人でお小遣いを出し合って沢山のお菓子を買ってきてくれて…。

「お世話になっとなるのに挨拶くらいしにこないかんやろ。」

「はい！これ、お供え！」。

きっと地域や職場の人たちの会話の中に「お盆・お供え・ご挨拶」というキーワードがあったのでしょう。心の中で「う～ん、おいしい！」と思いましたが、でもそんな心遣いができるようになった二人の成長が、とても嬉しかったと同時にたのもしくもあり、地域生活で様々なことを吸収しているんだと実感する出来事でもありました。



## <研修等予定について>

- 12月8日、9日  
サービス管理責任者研修（介護部門 演習）
- 12月26日  
日中活動見学会
- 1月25日、31日、2月3日  
相談支援従事者現任研修
- 日程未定  
障害者虐待に関する研修
- 日程未定  
「法の円滑な施行準備のための研修」

## 編集後記

今まで広報紙は年2回（9月・3月）の発行でしたので、地域とのつながりが福祉に求められている時代なのに、当施設最大のイベント「みどり園まつり」の様子をお知らせすることが叶わず、とても残念に思っておりました。このたび、広報担当として「地域とのつながり」をメインテーマに「みどり園まつり」を掲載することが出来たことをとても嬉しく思っております。

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418  
香川県立川部みどり園 TEL代087-885-8600  
E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp  
http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/